

郷土の先人 樋口健三先生(榊刈町)



初代 樋口健三先生

ここに紹介する樋口建三先生は、1841(天保12)年、阿波国那賀郡榊刈村(現在の小松島市榊刈町)に生まれ、1917(大正6)年にこの世を去るまでの76年間の生涯を、私利私欲を捨てて、専心榊刈村の教育のために捧げられた方です。先生がいかにすぐれた教育者であったかは、先生が逝去されて100年後の今日もなお、多くの町民が先生の遺徳を追慕し、毎年、敬義祭(公民館文化祭)を開催していることから明らかです。

樋口先生は、三代にわたる漢法医の家の長男に生まれ、幼少の頃から医学を習い、また漢学、算術、習字を修めました。1864(元治元)年23歳のとき、家業のかたわら敬義齋という私塾を開き、村民の子弟教育に従事しました。それが学制発布後、1874(明治7)年に榊刈小学校となり、同校の教師として教壇に立ちました。先生は決して

自己の学殖を誇ることもなく、ただ教育そのものに無上の生きがいを感じ、教え子に対しては、時には厳しく指導し、改心すればよくいたわり、まさに、わが子のごとく愛されました。先生は、初代校長として1906(明治39)年65歳で退職するまで、実に43年間村民の教育をほとんど一身に引き受けられていました。教師生活を通じた教育愛をもって貫き、教え子一人一人の成長を何よりも喜びとされた方でした。

一方、医者としての先生は、「医は仁術、礼(医療費)は志次第」とし、貧しい患者からは一銭も受け取らず、逆に布団の下にそっとお金を置いて帰られました。ときには、風雨の中を夜を徹して山を越え、診察に出かけられるという方でした。

先生が学校を退職されると、先生を父母のように慕う村民は、引き続き村民の精神的指導を乞うため、敬義会を組織して先生を総裁に迎えました。

樋口先生の敬義の教えは、「立派な人は敬(自分の精神)を真っ直ぐにし、義(自分の行い)を正しくする。これが学を為すことの根本である」の意であり、一日も変わる事がなかった教育への情

熱は、先生がご在職中、文部大臣表彰をはじめ、幾度となく県知事表彰を受賞されたことからも察するに余りあります。また、樋口先生の門下からは、東北大学名誉教授喜田貞吉文学博士など幾多の英才が輩出されています。特に、部落史研究の先駆者である喜田博士は樋口先生を敬慕し、その師弟愛は生涯を通じて貫かれました。喜田博士については、193・194号の人権啓発コーナーに詳しく紹介しています。

人権教育は、人としての生き方を学ぶ教育とも言われます。76年の生涯を何一つご自身の安逸を顧みることなく、人格が高潔で、ただ医業と教育に身をもって任ぜられた樋口先生は「阿波聖人」といふべき人であり、榊刈町ひいては小松島市が先生を生んだことは郷土の誇り高きことといえましよう。

市教育委員会生涯学習課
人権教育推進室(教育庁舎2階)
☎32・3814
FAX 33・1230
✉jinkenkyouiku@city.komatsushima.tokushima.jp

市民文芸 花みずき歌壇 (423) 山崎泰子・選

シヤクシヤクと霜柱踏み白い息「ガオー」と子らは青空に吐く

日開野町 森 理子

良き人に良き人がため病降る 今の私は祈ることのみ

横須町 天王谷 一

水割りの氷の鳴りてチリチリと今日のワークも無事に終了

小松島町 綴木 茂治

冬陽受け自己採点する生徒らの四角い教室温度差のあり

中田町 湯浅 百世

見逃しの三振だけはしたくない想いのバット振りぬいてやる

前原町 福元 英夫

遊ぶ子の声なき昼の公園に陽を受けて立つ寂しいブランコ

松島町 六田 靖子

綿雲がハミングしながらただよえば空はまったく青くかがやく

小松島町 萬宮千鶴子

ローソンをゆつくり歩く白鷺は無情のドアに買い物でぎざ

松島町 萬野 行子

星ひかり清き御空がいざなうは白き天使の人助く道

田浦町 岩田 泰一

歳重ね身巡り清しくあるべしと少し未練のものも捨てゆく

中田町 松並 敦子